

## 1 学校教育目標

志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒

生徒会スローガン

愛と笑顔が輝く 県下に誇れる桶川西中

### (1) 目指す学校像

「整った環境の中で、居がい・やりがいと豊かな学びがある学校」

- ① 生徒誰もが自分らしく、安心して挑戦できる学校
- ② 教職員が専門性を発揮し、活力に満ちた学校
- ③ 確かな信頼で結ばれ、保護者と共に歩む学校
- ④ 地域に開かれ、郷土の誇りとなる学校
- ⑤ 四者が志を一つに、未来を拓き続ける学校

### (2) 目指す生徒像

「西中生としての誇りを持ち、大きな夢と希望に向かって、

主体的に学び、行動する生徒」

- ① 自ら問い、学びをデザインし、新しい答えをつくる知性をもつ生徒
- ② 互いを認め、多様な価値観と響き合い、しなやかに挑戦し続ける心をもつ生徒
- ③ 自らを律し、心身を整え、夢に向かって粘り強くやり抜く活力をもつ生徒

### (3) 目指す教師像・・・『協力』『信頼』『共生』『誠実』『向上心』

- ①協力 …組織的対応力を備え、多様な専門性と協働できる教師
- ②信頼 …社会の動向に敏感であり、家庭・地域と学校を繋ぐ架け橋となる教師
- ③共生 …多様性を尊重し、生徒と共に新たな価値を創造する伴走型の教師
- ④誠実 …生徒のわずかな変容を見逃さず、個々の可能性を真摯に信じ抜く教師
- ⑤向上心 …時代の変化を主体的に捉え、プロとして学びを更新し続ける教師

## 2 学校経営方針

### (1) 基本理念

#### ①ビジョンの共有と「志」を育む教育の推進

本校の学校教育目標の実現に向け、全職員がその意義を深く共有し、全ての教育活動の起点とする。生徒一人一人が自らの可能性を信じ、主体的に学びを深められるよう、ICTの活用や探究学習を通じた質の高い教育環境を構築する。また、家庭や地域との対話を重ね、本校の教育方針への理解と共感を得ることで、地域全体で生徒の成長を支える体制を強固なものにする。

## ②「居がい・やりがい」を創出する組織文化の醸成

目指す学校像を実現するため、まず教職員自身が、互いの専門性を尊重し、高め合える職場環境を構築する。一人一人の職員が自律したプロフェッショナルとして、互いの「よさ」を認め合い、率直に意見を交わせる心理的安全性の高い組織を確立する。教職員のウェルビーイングが、生徒への質の高い伴走と、豊かな学びの提供につながることを深く自覚する。

## ③有機的連携による「チーム西中」としての経営参画

複雑化する教育課題に対し、個人の力に頼るのではなく、共通理解に基づいた組織的な対応を徹底する。分掌や学年の枠を超えた有機的な連携を図り、全職員が学校経営の当事者として積極的に参画する。教職員の創意工夫を尊重し、効率的かつ創造的な校務運営を推進することで、生徒と向き合う時間を生み出し、教育効果の最大化を図る。

## (2) 経営方針

「目指す学校像」の実現に向けて、以下の方針に基づき学校経営を進める。

### 1 【志・学び】主体性を引き出す教育の実践

#### ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的推進

・ICTを効果的に活用し、生徒が自ら問いを立て、対話を通じて深く学ぶ授業を創造する。

#### ○生徒の「自治」と「志」を育む活動の支援

・生徒会活動や部活動を通じ、生徒が自律的に判断し、目標に向かって挑戦する力を養う。

#### ○「居がい」を支える生徒指導と教育相談

・生徒一人ひとりの自己肯定感を高め、多様な背景に寄り添った多角的な支援により、不登校の未然防止と解消に努める。

### 2 【安全・信頼】誠実で迅速な組織的対応

#### ○「命」を最優先とした安全・健康管理

・環境整備による安全確保と、いじめを許さない毅然とした態度を徹底し、心身の健康を守り抜く。

#### ○迅速な初期対応と「チーム西中」による解決

・諸課題に対し、個人で抱え込まず組織的・協働的に対応し、保護者・生徒に寄り添った丁寧な対話を行う。

#### ○プロフェッショナルとしての倫理観と使命感

・教育公務員としての自覚を持ち、不祥事防止と誠実な接遇を徹底し、学校への信頼を確立する。

### 3 【共創】社会に開かれた学校づくりの推進

#### ○地域のリソースを活かした「豊かな学び」の創造

・伝統を大切にしつつ、学校運営協議会やPTA、外部専門家と連携し、地域社会を学びのフィールドとして活用する。

#### ○戦略的な情報発信と信頼の構築

・教育活動の成果を積極的に可視化し、地域・保護者との双方向のコミュニケーションを活性化させる。

### 4 【組織】風通しのよい職場と有機的な連携

#### ○「心理的安全性」に基づくフラットな対話

・役職やキャリアを超えて「報・連・相・見届け」を徹底し、互いのよさを認め合える風通しのよい組織文化を醸成する。

#### ○「スマートスクール化」による働き方改革の推進

・ICT活用による業務の効率化と精選を図り、生徒と向き合う時間と、職員自身のウェルビーイングを創出する。

### 3 本年度の具体的教育方針（重点事項）

#### （1）確かな学力の定着と豊かな学びの実践

- ◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを行うことで、確かな学力を定着させ、豊かな学びを実践する。
  - ・ICTの活用や学習習慣の形成等により、基礎・基本を徹底させる。
  - ・様々な表現方法により自分の考えを言語化させたり、他者の考えに対して質問や意見をさせたりすることにより、言語活動を充実させる。
  - ・教員自身が学び続ける意識や姿勢をもち、教材研究を充実させることにより、生徒の主体的な学びを促す仕掛けのある授業を実践する。
  - ・学習の個別最適化や授業のUD化等の授業改善に取り組むことにより、誰一人取り残すことのない教育を実践する。
  - ・学校課題研究に教員全員が主体的に取り組むことにより、学校全体の指導技術をレベルアップさせる。
  - ・全国及び埼玉県学力・学習状況調査結果の「分析→授業改善→検証」を繰り返すことにより、生徒一人一人の学力を向上させる。

#### （2）健やかな心と体の育成

- ◎道徳教育や健康教育等を充実させ、知・徳・体をバランスよく育むことで、変化の激しい社会を自立して生き抜く力を身に付けさせ、健やかな心と体をもつ生徒を育成する。
  - ・「時を守り、場を清め、礼を正す」の実践を通じ、社会の一員としての自覚と、夢に挑戦するための自己統制力を養う。
  - ・「考え、議論する道徳」の授業を要として、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等において、道徳的価値を自分事として捉え、自律的な判断力と実践する心身を育成する。
  - ・学校行事や体験活動を重視し、取り組み通して豊かな人間性や社会性を身につけた生徒を育成する。
  - ・生徒の悩みに耳を傾け、適切な援助をすることで、生徒の心の健康を保つ。
  - ・体育的活動や部活動等、運動する機会をとらえて、生徒の体力を向上させる。
  - ・健康教育を重視し、自身の心身の健康を考え、生活できる生徒を育成する。

#### （3）生徒指導・教育相談体制の充実

- ◎発達支持的生徒指導と教育相談を一体的に進めることで、すべての生徒が自己肯定感や自己有用感を高めることができる学校文化を築く。
  - ・授業や学級、係や当番活動、部活動等あらゆる機会をとらえて、思いやりや共感性、自己理解力や課題解決力等を育成する。
  - ・生徒を積極的に褒め、認めていくことを実践し、安心できる集団づくりのための授業デザインを工夫するなどして、生徒が安心して過ごせる物理的・心理的な教室環境を確保する。
  - ・各教職員の役割等を明確にし、学校全体での協力体制を構築することで、チームとして諸問題に対応できる機能的な校内生徒指導体制を強化する。
  - ・職員間の情報共有と連携、保護者との情報共有と連携を確実にし、生徒の健全な成長という同じ方向を向いて協力し合う体制を築く。
  - ・学校生活アンケート及び二者面談を実施し、生徒の置かれている状況の確認と適切な指導・援助を行う。また、生徒や保護者の願いや思いに寄り添う姿勢で対応する。
  - ・教育相談においては、学級担任、部活動顧問、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が連携して対応できる体制を整備する。
  - ・職員、当該生徒及び保護者の三者が一体となって、教室復帰に向けたステップとして、また、校内における生徒の居場所として機能する学習支援室づくりを進める。

#### （4）人権を尊重した心の教育の推進

- ◎「いじめは重大な人権侵害であり、絶対に許されない」という共通認識を、生徒・教職員ともに徹底することで、生徒一人一人の個性を尊重し、豊かな人間性を育む教育を推進する。
  - ・いじめは相手の人権を侵害する行為であり、決して許されないことを生徒に理解させることで、自分の存在と他人の存在を等しく認め、互いの人権を尊重し合える心を育成する。
  - ・互いの違いを認め合うだけでなく、「孤立している仲間を見逃さない」視点を持ち、多様な個性が尊重され、誰一人取り残されない集団づくりを推進する。

- ・生徒会による「ピンクシャツデー」等の取組を通じ、「傍観者にならない」という意思表示を可視化し、生徒主導で「誰もが誰かの味方になれる学校」を創造する。
- ・「人権感覚育成プログラム」等を積極的に活用し、生徒及び職員自らの人権感覚を磨く。
- ・学校の実情に応じた「いじめ防止基本方針」となるよう、P D C Aサイクルの中で内容の見直しを行う。

## (5) 家庭・地域との連携強化

◎学校・家庭・地域が目標を共有し、一体となって取り組むことで、生徒の「生きる力」を育むとともに、学校が核となって持続可能な地域社会を構築する。

- ・保護者・地域と学校が密接に連携し、生徒を多角的に見守り、健全育成に資する。
- ・学校運営協議会を積極的に活用し、地域の教育力を学校教育活動に活かすとともに、生徒を地域の行事等に参加させることで、地域の活性化を図る。
- ・職員が積極的にP T Aや学校応援団活動に参加し協働することで、保護者・地域との信頼関係を構築し、一体となって組織的に生徒を育成する。

## (6) きれいで安全・安心な学校づくり

◎美しく潤いのある環境の中で教育活動を行うことで、物理的・心理的安全性を高め、生徒にとって居心地がいい学校づくりを推進する。

- ・川田谷の豊かな自然の中で、豊かな感受性、感動する心、他者への共感等を育み、豊かな感情と安定した人間性の土台を築く。
- ・清掃活動を「自分たちの環境を自分たちで創る主体的な活動」と位置づけ、奉仕の精神を育むとともに、職員が範を示し、清掃指導、教室環境整備（整理整頓）を徹底する。
- ・毎月の安全点検に加え、日頃から違和感に気付く目を持ち、危険箇所等を把握した場合は、直ちに報告し、改善する。
- ・登下校時の交通安全について、生徒が自分事として捉えられるように指導する。
- ・自分の命は自分で守るための様々な状況を想定した訓練を実施する。保護者・地域と学校が密接に連携し、生徒を多角的に見守り、健全育成に資する。

## (7) 地域に信頼される開かれた学校づくり

◎「地域とともにある学校」として、家庭や地域と目標を共有し、組織的に連携・協働することで、信頼関係を構築し、学校・家庭・地域が一体となって生徒を育成する基盤を作る。

- ・保護者や地域の方々に学校公開等の来校する機会を設け、学校行事やP T A活動に積極的に参加してもらうことで、様々な視点から学校教育活動を評価してもらう。
- ・保護者や地域からの意見や要望には謙虚に耳を傾け、その上で、関係者全員で誠意をもって対応する。
- ・学校教育への理解と協力を得るために、学校だよりや学校ホームページ等を活用して、積極的に情報を発信する。

## (8) 服務規律の遵守の徹底と働き方改革

◎教職員が教育公務員としての自覚を持ち、法令や規則を遵守することで、生徒・保護者・地域からの信頼を確保するとともに、働き方改革を推進することで、「教育の質の維持・向上」と「持続可能な学校運営」の両立を目指す。

- ・服務規程等に定められている業務を毎日確実に言い、小さな油断が教職員事故につながり得るという意識を高く持つようにする。
- ・教職員事故・不祥事を絶対に起こさないために、お互いの言動について注意し合える人間関係を構築する。
- ・小さな問題でも一人で抱え込まずに、必ず周囲に相談し、組織で対応する。
- ・学校行事の精選や、校務の電子化・簡略化をさらに進め、教材研究等の生徒のための時間を確保できるようにする。
- ・時間外在校時間を削減できるよう、見通しをもって業務を進める。
- ・分掌主任等が業務を抱え込まないように、担当者全員で業務内容について共有し、分担・協力しながら業務を進める。
- ・休暇を取得しやすい職場にするために、授業の補欠等をお互いにフォローし合える職場環境にする。
- ・健康診断、人間ドック等で自身の健康状態を把握して、自己管理を徹底するとともに、早めの健康相談と休養を心がける。